

静岡新聞

1月3日
水曜日

〒422-8033
静岡市駿河区登呂3-1-1
静岡新聞社
電話(054)282-1111
月決め2,980円 本誌 2,750円
消費税221円
1部130円(消費税込み)
©静岡新聞社2018

浜松総局 浜松市中区旭町11-1
プレスタワー内
電話(053)455-3355
沼津市魚町1
サンフロント内
電話(055)962-0380

快方への道筋付けたい

母子望み託す

2017年12月上旬、国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター(静岡市葵区)の脳波室から音楽が聞こえてきた。ベッドとカメラ、脳波を映し出すモニターが置かれた部屋の中央で、脳波検査技師が男児の頭の頭に22個の電極を付けていた。治療の効果を見るため、これから約18時間にもわたって脳波を記録する。男児の母親(31)がそっと語り掛けた。「今日はおりこうだね。頑張ろうね」

母親は15年10月、地元香川県の病院で男児を出産。その翌日、おかしな動きに気がついた。顔を真っ赤にして力む。医師に伝えたが原因は分からない。母親は注意して観察するようになった。生後2カ月を過ぎた頃、「びくん」と一瞬体が動く発作が頻発した。感染症などさまざまな可能性が指摘され、薬による治療が始まった。生後7カ月、病院で生けられた診断結果に耳を疑った。「ウエスト症候群です」

乳児期に発症する難治性のてんかん。すぐにインターネットで調べると、不安がいっぱいになった。発作が止まら

ない。発達面でも気がかりなことがある。笑顔が少なく、お腹がすいてもおむつが汚れていても泣いて知らせてくれない。治療例が多い病院で原因と治療方針をはっきりさせたい。診断から1カ月後、母子は静岡にやって来た。「薬を調整したり、ホルモン療法を受けたりと入院を繰り返した。だが、いずれの治療法も効果は一時的だった。現在は食事療法を試みていく。抗てんかん作用のあるケ

息子最近、おしゃべりも

したり、体を動かしたりと感情表現が活発になってきた。成長が感じられる瞬間のうれしさは他の母親と同じだ。だが、だからこそ焦りもある。早く治療の道筋を付けてあげたい

(「無知の知」取材班)

序章 治療の現場で ②



脳波検査に臨む男児。脳波検査技師によって電極が付けられていく(2017年12月上旬、静岡市葵区の国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター)

メモ

ウエスト症候群は点頭てんかんと呼ばれ、生後3~11カ月に発症。小さくうずいたり、両手を挙げてお辞儀をしたりするような発作を数秒から十数秒間隔で繰り返す。脳波では、「ヒプスアリスミア」と呼ばれる特徴的な異常波が見られる。生まれる前からの、もしくは出生前後の脳障害が原因とされるが、異常がないケースもある。服薬や副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)治療のほか、食事療法や外科治療が有効な場合がある。多くの場合、精神運動発達遅延を伴う。